

II 薬剤の使用状況

〔薬剤料の比率〕

1 薬剤料の比率

医科総点数に占める薬剤料の割合は、総数で22.2%、入院12.0%、入院外34.5%となっており、そのうち、「投薬」「注射」で使用された薬剤料の割合は、それぞれ、19.6%、9.8%、31.5%となっている。

前年と比較すると、総数で0.6ポイント上昇、入院で増減なし、入院外で1.1ポイント上昇している。

歯科総点数に占める薬剤料の割合は、総数で1.0%となっており、前年に比べ、0.1ポイント上昇している。

薬局調剤総点数に占める薬剤料の割合は、総数で70.0%となっており、前年に比べ、2.2ポイント上昇している。

また、薬局調剤分を医科、歯科それぞれに合算して求めた薬剤料の割合は、医科総数で27.6%、歯科総数で1.2%となっている。(表13)

表13 医科(入院-入院外) - 歯科 - 薬局調剤別薬剤料の比率の年次推移

(単位:%)

(各年6月審査分)

		平成11年 (1999)	12 (2000)	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	医科-歯科に薬局調剤分 (調剤報酬明細書分)を含めた場合			
							平成13年	14	15	
医 科	総 数									
	薬剤料	23.5	22.8	22.5	21.6	22.2	26.3	26.1	27.6	
	投薬・注射	20.8	20.1	19.9	18.9	19.6	24.1	23.9	25.5	
	投薬	15.5	14.9	14.7	13.6	13.9	19.6	19.3	20.6	
	注射	5.4	5.2	5.2	5.3	5.7	4.5	4.6	4.9	
	その他の薬剤料	2.6	2.8	2.6	2.7	2.6	2.2	2.2	2.1	
	入 院									
	薬剤料	12.7	12.1	11.8	12.0	12.0	11.8	12.0	12.0	
	投薬・注射	10.4	9.7	9.4	9.7	9.8	9.4	9.7	9.8	
	投薬	2.9	2.5	2.5	2.6	2.6	2.5	2.6	2.6	
	注射	7.5	7.2	7.0	7.1	7.1	7.0	7.1	7.1	
	その他の薬剤料	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.4	2.3	2.2	
	入 院 外									
	薬剤料	33.3	34.1	34.0	33.4	34.5	34.9	35.0	36.6	
	投薬・注射	30.4	31.0	31.0	30.2	31.5	32.8	32.8	34.6	
投薬	26.9	28.0	27.7	27.1	27.4	29.8	29.7	30.9		
注射	3.5	3.0	3.3	3.1	4.1	3.1	3.1	3.7		
その他の薬剤料	2.9	3.1	2.9	3.2	3.0	2.1	2.2	2.0		
歯 科	薬剤料	1.1	1.0	1.0	0.9	1.0	1.2	1.1	1.2	
薬 局 調 剤	薬剤料			67.5	67.8	70.0				

- 注: 1) 「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除外してある。ただし、「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」は「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書のみ除外してある。
- 2) 「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」では、薬局調剤分の総点数、薬剤料を医科、歯科にそれぞれ合算している。
- 3) 「薬剤料」とは、総点数に占める「投薬」「注射」及びその他の診療行為の中の薬剤料の割合である。ただし、「薬局調剤分(調剤報酬明細書分)を含めた場合」では、薬局調剤分の内服薬及び外用薬を「投薬」に、注射薬を「注射」に合算している。
- 4) 「その他の薬剤料」とは、総点数に占める、「在宅医療」「検査」「画像診断」「リハビリテーション」「精神科専門療法」「処置」「手術」及び「麻酔」の中で使用された薬剤料の割合である。
- 5) 入院時食事療養は、費用額算定を点数換算(入院時食事療養÷10)して総点数に含めている。
- 6) 薬局調剤分(調剤報酬明細書分)に係る調査は平成13年から実施している。

〔医科診療〕

2 入院外の投薬における薬剤点数の状況

薬剤点数別件数の構成割合は、「500点未満」が一般医療74.8%、老人医療51.9%と、最も多くなっている。「500～1000点未満」は一般医療15.0%、老人医療24.1%、「1000点以上」はそれぞれ10.2%、23.9%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が多くなっている。

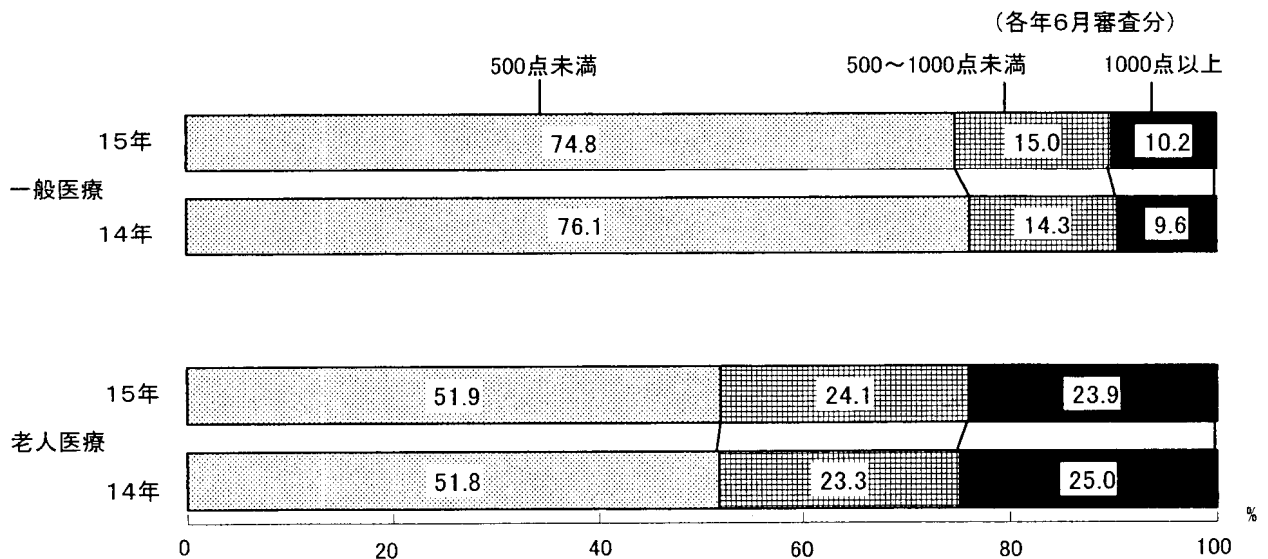
後発医薬品の出現した明細書の割合は、一般医療 43.3%、老人医療 53.2%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が高くなっている。(表14、図11)

表14 一般医療—老人医療—年齢階級別にみた薬剤点数別件数の構成割合（入院外・投薬）

		(平成15年6月審査分)											総件数に占める 後発医薬品が出現した明細書の 割合(再掲)
		総数	500点未満						500～1000	1000～1500	1500～2000	2000点以上	
		総数	100点未満	100～200未満	200～300	300～400	400～500						
総	数	100.0 (100.0)	67.7 (68.9)	24.3 (26.0)	17.3 (17.7)	12.1 (11.5)	8.0 (7.8)	6.1 (6.0)	17.8 (17.0)	7.4 (7.1)	3.2 (3.1)	3.9 (3.9)	46.4 (43.6)
一	般 医 療	100.0 (100.0)	74.8 (76.1)	28.1 (30.1)	20.0 (20.1)	13.2 (12.3)	7.8 (7.8)	5.6 (5.8)	15.0 (14.3)	5.4 (5.1)	2.2 (2.1)	2.6 (2.4)	43.3 (40.6)
老	人 医 療	100.0 (100.0)	51.9 (51.8)	15.8 (16.2)	11.2 (11.7)	9.4 (9.6)	8.3 (7.7)	7.2 (6.5)	24.1 (23.3)	11.8 (11.9)	5.4 (5.7)	6.7 (7.4)	53.2 (50.8)
年 齢 階 級	0～14歳	100.0	93.3	48.2	25.6	11.3	5.9	2.4	4.8	1.0	0.5	0.3	47.7
	15～39歳	100.0	86.4	35.6	25.1	13.7	7.0	5.0	8.5	2.6	1.0	1.4	43.6
	40～69歳	100.0	65.8	20.3	16.9	13.6	8.5	6.5	19.7	7.7	3.1	3.7	41.8
	70～79歳	100.0	53.1	16.0	11.7	9.9	8.3	7.2	24.4	11.2	5.0	6.4	51.9
	80歳以上	100.0	51.1	15.7	10.2	8.7	8.6	7.8	23.7	12.4	5.9	6.9	56.1

注:1)「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。
 2)「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。
 3) ()内は平成14年6月審査分

図11 一般医療—老人医療別にみた薬剤点数別件数の構成割合（入院外・投薬）



3 入院外の投薬における薬価階級別薬剤点数の状況

薬価階級別薬剤点数の構成割合は、薬剤名が記載されており、その薬価が「250円未満」は、一般医療82.3%、老人医療85.0%であり、最も多くなっている。「250～500円未満」は一般医療6.5%、老人医療4.2%、「500円以上」はそれぞれ8.0%、7.0%となっている。

また、「薬剤名無記載」(所定単位当たりの薬価が175円以下で、明細書に個々の薬剤名の記載のないもの)は一般医療3.2%、老人医療3.7%となっている。

後発医薬品の点数の割合は、一般医療7.6%、老人医療8.6%となっており、一般医療に比べ老人医療の割合が高くなっている。(表15、図12)

表15 一般医療—老人医療—年齢階級別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合(入院外・投薬)

(単位:%)		(平成15年6月審査分)										
	総数	250円未満						250～500	500円以上	薬剤名無記載	薬剤点数に占める後発医薬品の点数の割合(再掲)	
		総数	50円未満	50～100円未満	100～150	150～200	200～250					
総数	100.0 (100.0)	83.5 (83.7)	32.7 (34.2)	23.5 (23.9)	9.6 (9.2)	12.0 (10.5)	5.7 (6.0)	5.5 (5.9)	7.6 (6.8)	3.4 (3.6)	8.0 (6.8)	
一般医療	100.0 (100.0)	82.3 (82.4)	30.8 (32.5)	23.9 (24.2)	9.5 (9.1)	12.6 (11.1)	5.6 (5.5)	6.5 (6.7)	8.0 (7.1)	3.2 (3.9)	7.6 (6.5)	
老人医療	100.0 (100.0)	85.0 (85.4)	35.2 (36.4)	23.0 (23.4)	9.9 (9.4)	11.2 (9.7)	5.8 (6.5)	4.2 (4.8)	7.0 (6.4)	3.7 (3.4)	8.6 (7.3)	
年齢階級	0～14歳	100.0	77.5	26.0	21.1	17.1	11.4	1.8	14.9	4.7	2.9	9.6
	15～39歳	100.0	78.8	33.2	19.5	10.0	10.2	5.9	7.1	11.5	2.6	8.3
	40～69歳	100.0	83.4	30.7	25.1	8.7	13.1	5.8	5.5	7.8	3.3	7.1
	70～79歳	100.0	85.1	34.0	23.3	9.6	12.3	5.9	4.8	6.7	3.5	8.4
	80歳以上	100.0	85.1	37.4	22.2	10.5	9.2	5.7	3.6	7.0	4.3	9.4

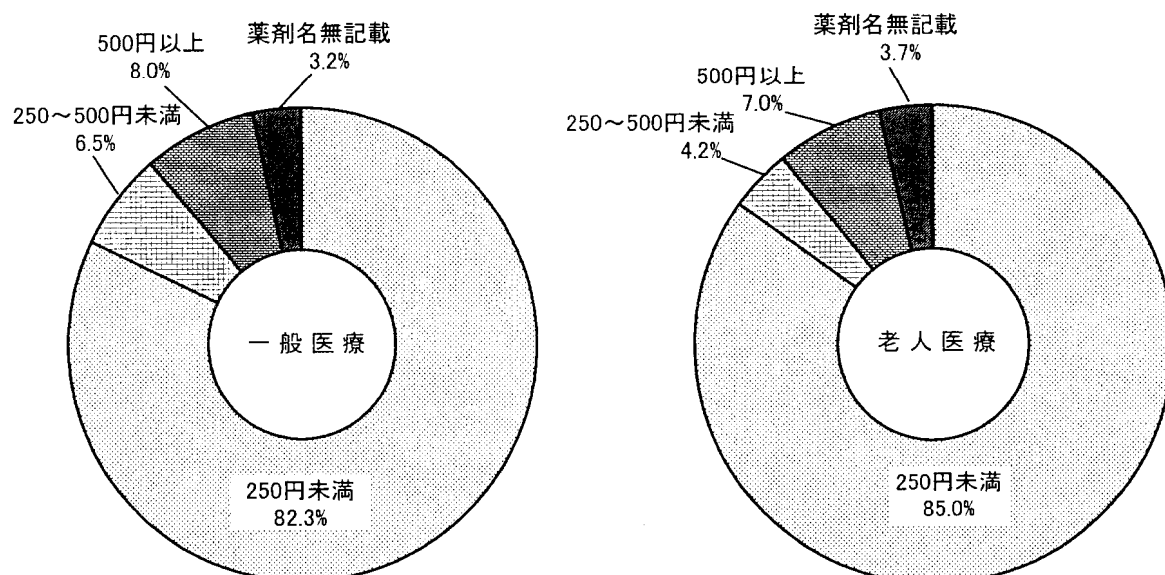
注1)「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。

2)「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。

3) ()内は平成14年6月審査分

図12 一般医療—老人医療別にみた薬価階級別薬剤点数の構成割合(入院外・投薬)

(平成15年6月審査分)



4 入院外の投薬における薬剤種類数の状況

薬剤種類数別件数の構成割合は、一般医療、老人医療とも「1～2種類」が最も多く、それぞれ 46.6%、35.8%となっている。次いで一般医療では「3～4種類」、「5～6種類」、「7種類以上」の順となっており、老人医療では「3～4種類」、「7種類以上」、「5～6種類」の順となっている。

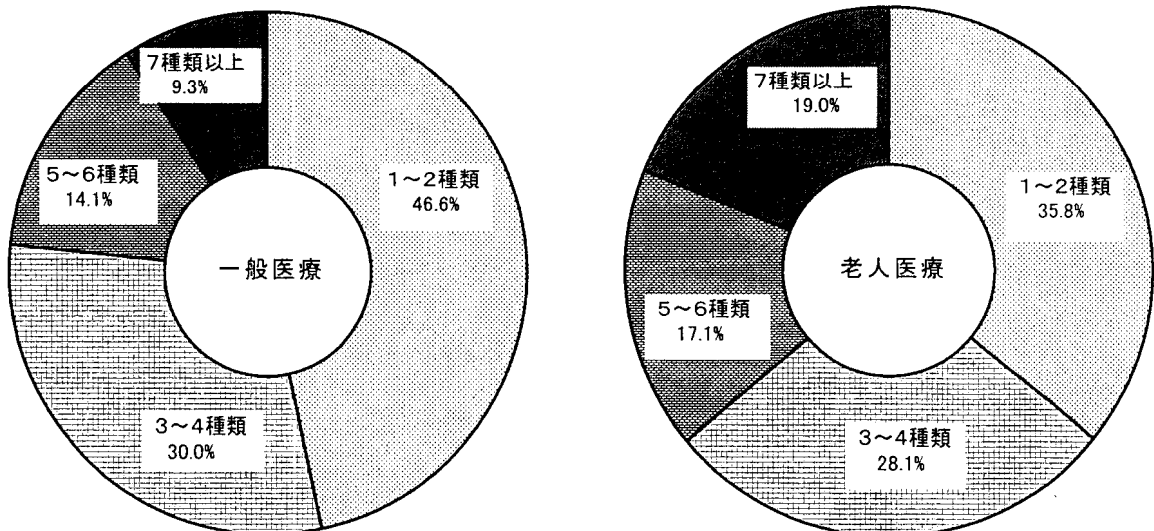
1件当たり薬剤種類数をみると、一般医療3.29、老人医療4.20となっている。(表16、図13)

表16 一般医療—老人医療—年齢階級別にみた薬剤種類数別件数の構成割合、1件当たり薬剤種類数
(入院外・投薬)

		(単位:%)											(平成15年6月審査分)	
		総数	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	7種類	8種類	9種類	10種類以上	1件当たり薬剤種類数	1件当たり薬剤種類数に占める後発医薬品の種類数(再掲)
総数		100.0 (100.0)	22.1 (22.7)	21.2 (21.1)	16.8 (16.2)	12.6 (12.5)	8.8 (8.8)	6.2 (6.3)	4.2 (4.2)	2.7 (2.9)	1.8 (1.8)	3.6 (3.6)	3.57 (3.57)	0.77 (0.71)
一般医療		100.0 (100.0)	24.6 (25.2)	22.0 (22.2)	17.4 (16.7)	12.6 (12.6)	8.5 (8.3)	5.6 (5.6)	3.4 (3.5)	2.1 (2.3)	1.4 (1.3)	2.4 (2.3)	3.29 (3.26)	0.69 (0.63)
老人医療		100.0 (100.0)	16.6 (16.6)	19.2 (18.4)	15.6 (15.0)	12.5 (12.2)	9.5 (9.8)	7.6 (7.9)	5.9 (5.9)	3.9 (4.4)	2.8 (2.9)	6.4 (6.8)	4.20 (4.29)	0.96 (0.89)
年齢階級	0～14歳	100.0	20.5	20.2	17.0	14.1	10.7	7.5	4.6	2.3	1.7	1.4	3.49	0.73
	15～39歳	100.0	24.9	21.5	18.0	14.0	8.7	5.5	2.9	1.8	1.1	1.7	3.18	0.67
	40～69歳	100.0	25.6	22.5	17.3	11.7	7.8	5.2	3.4	2.2	1.4	2.9	3.28	0.68
	70～79歳	100.0	17.2	20.6	16.4	12.6	9.6	7.0	5.5	3.3	2.3	5.5	3.99	0.89
	80歳以上	100.0	15.5	17.3	13.9	12.3	9.6	8.5	6.5	4.8	3.6	8.0	4.52	1.09

- 注:1) 「投薬」の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」注射)を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計の対象としている。
 2) 薬剤名無記載は、1種類としている。
 3) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。
 4) ()内は平成14年6月審査分

図13 一般医療—老人医療別にみた薬剤種類数別件数の構成割合 (入院外・投薬)
(平成15年6月審査分)



5 薬効分類別にみた薬剤使用の状況（入院・入院外）

薬効分類別薬剤点数の構成割合は、入院では一般医療、老人医療とも「抗生物質製剤」が最も多く、それぞれ13.4%、18.3%となっている。次いで一般医療では「腫瘍用薬」11.5%、老人医療では「循環器官用薬」10.1%となっている。入院外では一般医療、老人医療とも「循環器官用薬」が最も多く、それぞれ21.0%、27.4%、次いで一般医療、老人医療とも「その他の代謝性医薬品」であり、それぞれ9.7%、11.4%となっている。（表17）

表17 一般医療—老人医療—年齢階級別にみた薬効分類別薬剤点数の構成割合

	(平成15年6月審査分)									
	総数	一般医療	老人医療	年齢階級					後発医薬品 (再掲)	
				0～14歳	15～39歳	40～69歳	70～79歳	80歳以上		
	入 院									
総数	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
中枢神経系用薬	8.0 (9.2)	9.0 (10.5)	7.1 (7.7)	7.0	11.0	8.7	6.6	7.7	4.0	
感覚器官用薬	1.8 (1.5)	1.2 (1.0)	2.4 (2.1)	0.3	0.4	1.3	2.5	2.2	10.6	
循環器官用薬	7.9 (7.7)	5.6 (5.7)	10.1 (9.8)	1.5	2.7	6.7	10.1	9.8	12.2	
呼吸器官用薬	1.0 (1.0)	0.9 (0.9)	1.0 (1.0)	5.6	0.9	0.6	0.9	1.2	0.8	
消化器官用薬	5.0 (5.1)	5.6 (5.2)	4.4 (5.1)	2.7	5.5	5.9	4.4	4.2	5.6	
ホルモン剤	1.8 (1.7)	1.8 (1.9)	1.7 (1.5)	2.4	2.7	1.6	2.0	1.4	2.2	
外皮用薬	1.1 (1.3)	0.9 (0.9)	1.4 (1.7)	0.5	1.0	0.9	1.2	1.6	2.1	
ビタミン剤	1.0 (1.1)	0.8 (0.8)	1.2 (1.4)	0.4	0.8	0.8	1.0	1.5	4.9	
血液・体液用薬	8.7 (8.3)	8.9 (8.3)	8.4 (8.3)	11.4	9.1	8.8	7.8	9.2	23.1	
その他の代謝性医薬品	6.9 (7.9)	6.5 (6.8)	7.4 (9.0)	2.8	3.8	7.4	7.3	7.2	5.8	
腫瘍用薬	7.7 (6.9)	11.5 (9.8)	4.2 (3.6)	4.8	5.9	12.7	6.1	2.0	0.7	
アレルギー用薬	0.4 (0.3)	0.4 (0.3)	0.4 (0.4)	1.1	0.5	0.3	0.3	0.5	0.2	
抗生物質製剤	15.9 (14.4)	13.4 (12.4)	18.3 (16.6)	34.6	19.2	11.1	15.1	22.3	12.0	
化学療法剤	3.4 (3.8)	3.1 (4.0)	3.8 (3.6)	2.5	4.3	3.0	3.3	4.4	1.5	
生物学的製剤	9.1 (10.0)	9.8 (12.3)	8.4 (7.5)	14.5	10.9	9.1	9.7	7.1	-	
その他の薬効	20.2 (19.7)	20.7 (19.0)	19.8 (20.5)	7.9	21.3	21.1	21.7	17.8	14.3	
	入 院 外									
総数	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
中枢神経系用薬	7.2 (7.7)	7.4 (8.0)	6.9 (7.2)	2.4	11.6	7.1	6.5	7.5	7.1	
感覚器官用薬	3.0 (2.9)	2.6 (2.6)	3.6 (3.3)	4.3	2.8	2.3	3.4	4.1	6.3	
循環器官用薬	23.7 (23.7)	21.0 (21.2)	27.4 (27.0)	0.3	3.7	26.5	27.7	27.7	18.0	
呼吸器官用薬	2.5 (2.4)	2.9 (2.9)	1.9 (1.7)	11.8	3.6	1.8	1.9	1.8	4.0	
消化器官用薬	8.2 (8.7)	7.4 (8.0)	9.3 (9.5)	1.5	6.1	8.2	9.1	10.1	11.3	
ホルモン剤	5.3 (5.6)	5.9 (6.2)	4.5 (4.8)	22.6	9.7	3.4	4.3	4.8	2.9	
外皮用薬	4.0 (4.4)	3.6 (3.8)	4.5 (5.2)	3.5	5.1	3.1	4.5	5.0	6.1	
ビタミン剤	2.2 (2.3)	1.5 (1.7)	3.2 (3.1)	0.1	1.0	1.8	3.0	3.4	10.8	
血液・体液用薬	3.6 (3.7)	2.8 (2.5)	4.7 (5.5)	1.3	1.7	3.2	4.4	5.1	6.2	
その他の代謝性医薬品	10.4 (9.2)	9.7 (9.1)	11.4 (9.4)	1.3	5.6	11.9	11.4	9.4	7.2	
腫瘍用薬	4.3 (3.5)	4.8 (3.5)	3.6 (3.6)	0.5	2.3	6.0	3.7	3.0	1.2	
アレルギー用薬	4.0 (3.7)	4.9 (4.7)	2.7 (2.4)	11.6	8.5	3.5	2.7	2.8	6.8	
抗生物質製剤	3.7 (3.8)	5.3 (5.6)	1.4 (1.4)	25.1	9.5	2.4	1.5	1.4	2.5	
化学療法剤	3.4 (2.8)	4.5 (3.5)	1.8 (1.7)	2.9	8.9	3.5	2.4	1.5	4.5	
生物学的製剤	2.5 (2.3)	4.1 (3.5)	0.4 (0.7)	6.5	8.8	2.7	0.7	0.4	-	
その他の薬効	9.4 (10.3)	9.2 (10.1)	9.6 (10.6)	2.2	9.0	10.0	10.1	8.3	5.3	

注: 1) 薬剤の出現する明細書(ただし「処方せん料」を算定している明細書及び「投薬」「注射」を包括した診療行為が出現する明細書は除く。)を集計対象としている。

2) 「総数」、「一般医療」及び「老人医療」には、年齢不詳を含む。

3) 「総数」には、薬剤名無記載を含む。

4) ()内は平成14年6月審査分

5) 「血液・体液用薬」は、生理食塩液等を指すもので、血液製剤は「生物学的製剤」に分類される。

6) 「その他の薬効」には、上記分類以外の「滋養強壮薬」、「泌尿生殖器官及び肛門用薬」、「診断用薬」等の分類を含んでいる。